

# 沖合底びき網漁業の漁獲物の季節変化

福島県水産資源研究所 資源増殖部

## 1 部門名

水産業—資源管理—底びき網

## 2 担当者

松本陽・坂本啓・山田学

## 3 要旨

震災後に増加した資源を持続的かつ効率的に利用する機運が高まっており、特に底魚を対象とした沖合底びき網漁業(以下、沖底)の操業効率化に資するためには、底付近の海況と魚種組成との関連を明らかにすることが有効であると考えられる。そこで、2017年に沖底漁船が取得した底水温データと漁獲魚種組成との関連について検討し整理した。

(1) 相馬双葉漁業協同組合原釜地区所属の19トン型の沖底船4隻に週1回の頻度で底びき網の網口への水温ロガー(TidBiTv2、Onset Co.)を設置した。これにより底付近の水温データを取得するとともに、操業日誌を活用し、漁獲魚種とその重量を整理した。これらのデータセットは、鵜ノ尾埼沖の海底地形を基に、大きく変化する150m以浅と以深をそれぞれ「浅海域」と「深海域」に区分して解析した。

(2) 浅海域の底水温は、1月から低下し、2月中旬に最も低くなった(約8°C)。その後5月から上昇し、10月に約14°Cと最も高くなった(図1上)。漁獲魚種は、ヒラメ、ババガレイ、キアンコウ、マガレイが数10kg/網以上の高いCPUEで推移し、上位を占めた。これら優占種については、CPUEの経時的な変動はあるものの、種組成が季節で大きく変わることはなく、水温変化への応答は不明瞭であった(図1下)。

(3) 深海域の底水温は、1月から低下し、5月に最も低くなった(5.1°C)。その後、親潮の影響を受けていた9月まで7°C以下で推移し、12月に約12°Cと最も高くなった(図2上)。漁獲魚種は、マダラ、ババガレイ、アオメエソ、ヤリイカ、キアンコウが数10kg/網以上の高いCPUEを示し、上位を占めた。種組成に季節変化が見られ、浅海域とは異なっていた(図2下)。

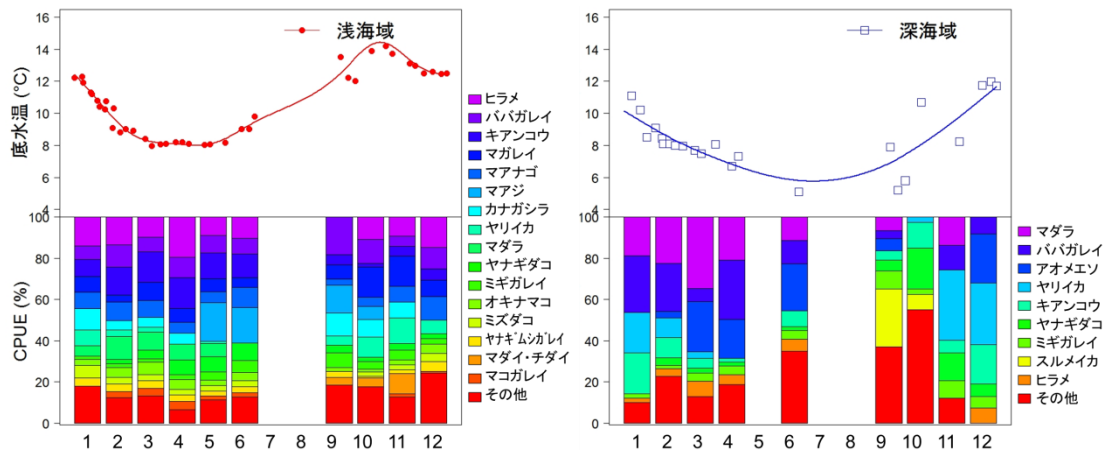


図1 浅海域における底水温と魚種組成の経時変化

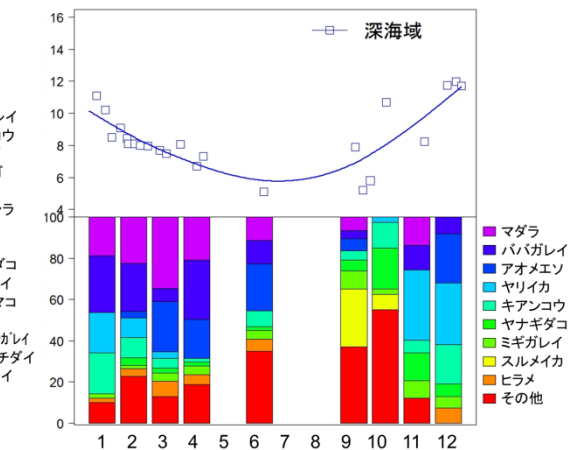


図2 深海域における底水温と魚種組成の経時変化

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成30年度
- (2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明
- (3) 参考となる成果の区分 指導参考

## 5 主な参考文献・資料

なし